三河大島いかだレース10周年

梶山一也氏

～ レースを支える実行委員長の思い ～

蒲郡の夏のイベントと言えば、三尺玉が目玉の花火大会と、今年 10 周年を迎える「三河大島いかだレース」今年の記念レースは『島取物語』と銘打ち、大島の漁場を巡って三谷・形原・蒲郡の漁師が競い合ったという伝説に因んでいる。実行委員長の梶山一也氏によると、元々は府相地区で 6 つの常会対抗で催されていた。当時は距離も 200mと短く、今では竹島から三河大島までのな・な・なんと 3.5km にのびた？！全国各地のいかだレースは、ほとんどは川下りで蒲郡のように荒波かきわけて行くスタイルは珍しいとのこと。

海で行うイベントなので安全面は特に配慮が必要となる。出場チームのいかだが全て転覆した時には全員を救助できる体制を整えなければいけない。でも過去には、ギリギリまで天候の判断が難しく、参加するいかだを目の前にして関係方面の調整に苦慮したこともあった。

レースの参加者は市内に留まらず県外からも参加がある。最近は若い人や企業の参加も増えてきたので本当にうれしい、大半は３０～４０代だ。レースによって三河大島の観光客を増やしたいという背景もあったが・・・。「飲み屋が流行るという思わぬ波及効果も～！！」**<u>レースの話題で盛り上がるそうだ。</u>**

梶山さんは頼まれたら嫌と言えない性格で、何よりも「みんなが楽しんでくれたらありがたい！」と言う。そんな梶山さんだからこそ、大変な思いをしても大会の運営を頑張ることができる。

過去を振り返ってみて、８回目の後片付けの後、閉会式に遅れて行ったらみんなが拍手で迎えてくれたことが　***とてもうれしかった***　そうだ。今後のいかだレースの展望について伺ったら、「やめたくない。ずっと継続させていきたい。」とのこと。「今以上に全国から参加者が集まるイベントにすると同時に、地元蒲郡の人にもっといかだレースについて知ってもらいたい。」

やさしい街づくり

現在、整備中の蒲郡北駅前広場が７月には利用開始されるということで見てきました。なぜ見に行ったかというと、『点字ブロックのレイアウト』『車イス優先の停車帯の設置』『駐車料金精算機の利便性』など車イス利用者、盲人協会の方、まちづくりセンタースタッフや行政の方を交え意見交換をしてきたからです。

業者の方から『弱視の人って、周囲のブロックの配置で点字ブロックの色の見え方が違うって本に書いてあったよ。』と勉強されていたのには感動しました。行政もできる限りのことは実施していただいたと感じています。

後は今後利用される方のモラルでより良くしていく事かも知れません。ルールを守って利用しましょう！！
今後も街づくりに意見できる機会があれば、おこなっていきます。